

◆ 基礎情報

計画名	学生それぞれの自分なりのリーダーシップの意識を高める看護学総合実習
実施責任者	看護学部 中野実代子
対象者	看護学部 4年 11名
実施期間	2025年4月～10月

◆ 取組み概要

本取組みは、看護学総合実習に向けた実習内容や実習計画の検討を含む準備を学生主体で進めることにより、学生一人ひとりが自分なりのリーダーシップへの意識を高めることを目的として実施した。

実習に向けた準備として、①実習に求められる役割と責任の明確化、②自分なりのリーダーシップに関する意識および目標の設定・提出、③グループとしての目標設定、④個々の目標設定について、グループ単位で検討した。その後、実習病棟単位でグループを編成し、実習計画・実習内容の検討、必要な技術演習、実習における学生の役割の話し合いなど、協働的かつ主体的なグループ活動を継続して行った。初回の懇談会を兼ねたグループ活動では、ループリックスを活用して共立リーダーシップと「自分なりのリーダーシップ」の概念を説明し、学生の意識づけを図った。その後、5～6回のグループ活動を通して学生主体による実習準備を進め、実習計画発表会を実施して修正を加えたうえで、実習部署との打ち合わせを行った。

実習期間中は、初日にグループワークを通して実習中に発揮したいリーダーシップ目標を設定した。中間日には、共立リーダーシップの視点に基づく中間評価を実施し、ループリックスを用いた自己振り返りと教員からのフィードバックを行った。最終日には、①共立リーダーシップの観点から成長を振り返るグループワーク、②各グループの学びを共有するリーダーシップカンファレンス、③共立リーダーシップおよび「自分ならではのリーダーシップ」の重要性に関するミニ講義とフィードバックを実施し、学習成果の統合を図った。

◆ 取組み全体の流れ

1. 実習に向けた活動

1)活動開始時のグループ活動【4月】（学生による主体的なグループ編成後に実施）

- ① 実習において学生に求められる役割と責任の明確化
- ② 実習を通して発揮したい「自分なりのリーダーシップ」に関する意識および目標の設定・提出
- ③グループとしての目標設定
- ④グループ活動における学生自身の個別目標の設定

2)学生による主体的なグループ活動【5～8月】

- ①実習計画・実習内容の検討、②実習における学生自身の役割

3)実習計画発表会【8月】：各グループで検討した実習計画の共有と修正を実施

4)実習打ち合わせ【9月】：実習部署との間で、作成した実習計画に関する打ち合わせを実施

2. 実習期間【9月22日～10月3日】

1)初 日：グループワークを通して、実習中に発揮したいリーダーシップの目標を設定

2)中間日：共立リーダーシップの視点に基づき中間評価を実施

ループリックスを活用して学生の振り返りを促し、教員からフィードバック

3)最終日：グループワーク、カンファレンス、ミニ講義を実施

- (1) グループワーク：実習初日に設定したリーダーシップの目標について、ループリックス教材を用いて到達状況を確認し、共立リーダーシップの観点から、実習を通して学生自身の成長を振り返り、「自分なりのリーダーシップ」について再考する
- (2) リーダーシップカンファレンス：グループワークでの検討内容を基に、各グループが考えや学びを共有する場として、カンファレンスの実施
- (3) リーダーシップミニ講義とフィードバック：共立リーダーシップおよび「自分ならではのリーダーシップ」が、将来の自分にとって重要であることを意味づけるためのミニ講義とフィードバックの実施

◆ 取組みの成果

グループ活動【5～8月】の経過

各グループで考えた実習計画

実習計画発表会の様子【8月】

実習部署との実習計画の打ち合わせの様子【9月】

リーダーシップカンファレンスとミニ講義の様子【10月】

◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ 目標設定の活動	本取り組みでは、グループ活動を通じて学生のリーダーシップ意識を高めることを目的とし、導入時の説明と継続的な目標設定・振り返り評価を体系的に実施した。導入段階では、「共立リーダーシップ実践ガイド」とループリックスを用いてリーダーシップの概念と行動指標を示し、学習者が目指す行動像を明確にした。初回のグループ活動では、各グループに活動目標、チーム方針、ルールを設定させることで主体的な役割遂行を促した。さらに、各回で活動目標の設定と振り返り評価を行わせ、自己のリーダーシップ行動を継続的に内省できる仕組みを整えた。
協働活動	各チームは、設定した活動目標に基づき、グループ内での役割協働や課題解決に取り組んだ。活動内容としては、目標達成に向けた話し合い、意見調整、作業分担など、リーダーシップ行動を必要とするプロセスが実施された。活動方法は対面・オンライン（Google Meet）を含め学生の主体性に委ね、3～4回の活動を行った。学習環境としては、「共立リーダーシップ実践ガイド」とループリックスを活用し、評価基準を明確化した上で、毎回の目標設定と振り返りができる枠組みを提供した。また、リーダーシップ行動を客観的に把握できるよう、4つの項目を6段階で数値評価し、行動の可視化を支援した。
共立リーダーシップの観点での 振り返り	共立リーダーシップの振り返りの活動では、各回のグループ活動後に目標の達成状況を確認し、自己評価と相互評価を実施した。目標設定と振り返りには、行動を可視化するために共立リーダーシップの4項目を1～6点の数値で評価するとともに、「リーダーシップ自己確認シート」と「リーダーシップ振り返りシート」を活用した。この仕組みにより、学生は自身のリーダーシップ行動を客観的に把握し、強みと改善点を明確にした上で次回の目標設定につなげることが可能となった。

◆ 学生の成長に関する総括

共立リーダーシップの4項目を評価した合計得点は、活動開始時 16.3 ± 1.42 、実習開始時 17.6 ± 2.0 、実習中間日 19.7 ± 1.9 、実習最終日 22.2 ± 1.7 であり、時点が進むにつれて上昇した。時点間の差をFriedmanの順位検定を行った結果、活動開始時と実習最終日 ($p < .001$)、実習中間日と実習最終日 ($p < .001$) の間で有意差が認められた。合計得点が段階的に上昇し、とくに最終日に有意な伸長が認められたことから、実習経験を通じてリーダーシップ関連行動が総合的に高まり、実践場面における発揮が強化された可能性を示唆する。加えて、記述内容からは、特に目標の明確化・共有、相互支援、率先垂範、主体性に関する具体的な行動が増え、活動開始時の課題として挙げられた率先垂範についても、振り返りを通じた再目標化により改善を試みた過程が確認されており、後半での得点上昇（中間日→最終日）とも整合する結果と考えられる。

学生による自分なりのリーダーシップは、主体的に動きながらメンバーの意見を聴いて統合し、困りごとに気づいて声をかけ、メンバーの強みを生かした相互支援が生まれる状態をつくることであると捉える傾向が強かった。

◆ 取り組みを通した全体の所感

本取り組みを通して、リーダーシップは特定の役割を担う者だけが発揮するものではなく、目標の明確化・共有、相互支援、率先垂範といった日々の行動の積み重ねによって育まれるものであることを再認識した。実習を通じて、学生の目標は「意識」から「具体的な行動」へと明確化し、中間の振り返りは、課題の言語化と行動の見直しを促す有効な機会となった。運営においては、①目標を明確にしチーム全体で共有すること、②ループリックスを評価のためだけでなく対話の共通言語として活用すること、③中間評価日にフィードバックを行い学習の方向性を適切に修正する機会を確保すること、④その日の目標や行動の優先順位、困っていることを短時間でも共有できる仕組みを整え、毎日同じ手順で情報を共有できるようにすることが重要であると確認した。

また、学生のリーダーシップを育むためには、教員が学生を受けとめ支える包容性を備えることが必要であると気づいた。このような関わりは、結果として教員自身のリーダーシップを高めることにもつながっていたのではないかと考える。

◆ 今後の展開

本取り組みで得られた成果を踏まえ、次年度の看護学総合実習をより充実した授業内容へと発展させていきたいと考える。